想作天文学〔I〕

赤い星シリウス

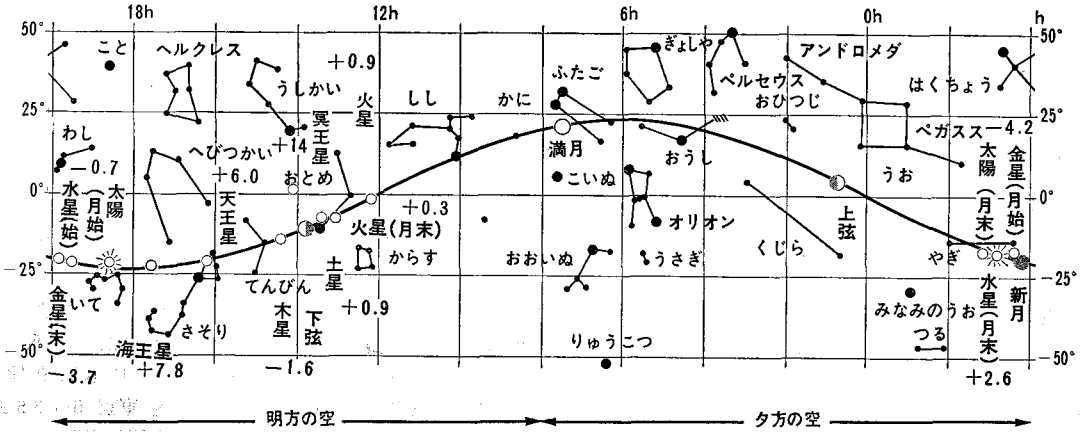
全天最輝の恒星シリウスには深い神秘が隠されている．距離 8.7 光年にある A 型の青白いこの星が，かの『アルマゲスト』(12C ごろ) の星表の中で「赤味がかった星」と記録されている (藪内訳下巻 p. 351) ことは昔から論議のたねであった．いつの間に赤から青白へ色が変ったのだろうか．自然現象としては不自然である．不自然とはつまり人工的ということであり，宇宙人が関与していることを示す．ダイソン (1960) が指摘したように，ある惑星に生じた文明は進化の果てに遂には主星を包みこむ文明をつくりあげる．その高度文明では主星の光は一度吸いとられ，エネルギーを利用した後に赤外光として外界に捨てられるから，遠方から眺めると赤い星に見える．さて，この高度文明が崩壊すれば，本体がムキ出しになるから赤い色は消えるだろう．このような事態がかつてシリウスに存在した文明に生じたと解釈するしかないというのが最近の傾向である．

この解釈は，昔のシリウス文明は星間飛行で近隣の星々を文明化していたという証拠からも支持される．この秘密を知っていたヴォルテールは『ミクロメガス』を書いてシリウス星人の飛来を報告した (1752)．身長 36 km の巨人というから，その比率でいくと母天体の半径約 1 天文単位となり，ダイソン文明の概念と一致する．シリウスが赤味がかっており，火星衛星が 2 個あることを地球人の発見 (1877) に先立ってわざわざ報告した事は，彼の情報源に信頼性を与える．その火星衛星は宇宙文明の作った人工衛星であることは既にシュクロフスキーが指摘 (1959) したが，スイフトも火星衛星を予言 (1726) したから情報源は同じなのであろう．よく古代文明の高い技術の不思議さが言われ，どこからそれを学んだか問題視されている．古代高度技術の総本山のエジプト文明を見ると，そこでは徹底したシリウス崇拝が行われていた．これはまさに技術と文明の母国が実はどこであるかをエジプト人が知っていたためであろう．シリウス文明と太陽系・地球との過去の交流は歴史の底流としてひそんでいるのである．

千年ほど昔にお隣りでダイソン文明球体の崩壊の異変があったのなら何か遺物があってよさそうだ．もちろん繊細な構造物の異変だから新星爆発のような経過無しに済んで気付かなかったであろうが．——実はシリウスは分光分析によれば単純な A 型星ではない．A 型金属線星 Am とよばれ (ストロムたち，1966)，星表面には金属が異常に多い．奇妙な事実である．これは，かつての構造物の残骸が星表面に落下して漂っていることを示唆している．　(天狼星人)

☆　☆　☆

◇ 1 月 の 天 文 暦 ◇

日	時	記	事
3	14	**上　弦**	
4	20	地　球	近日点通過
6	1	小　寒	(太陽黄経 285°)
8	21	月	最近
10	5	**望**	(月食　食の最大 4^h56^m)
16	21	水　星	東方最大離角
17	9	**下　弦**	
20	19	大　寒	(太陽黄経 300°)
20	21	月	最遠
21	19	金　星	内合
23	3	水　星	留
25	14	**朔**	

◇ 1 月の日月惑星運行図 ◇